はっぴぃ通信

夏　号（第 36 号）
2024 年　6 月 15 日

大塚医師より

【抗菌剤適正使用について】

今回は抗菌剤適正使用についてお話しします。

これは、適正に感染症診断を行い、その感染症に対して抗菌薬（抗生物質）が必要な場合は適正な抗菌薬を選択し、適正な量で、適正な治療を行う事を言います（これは医師としてはそれなりの経験と知識を必要とします）。数年前からこのことが世界中で言われ、日本でも厚生省を中心にキャンペーンを行っています。

過剰な（量、使用期間を含めた）抗菌剤の使用により、薬剤耐性菌が多くなり（効いていたのに効かなくなってしまう）抗菌剤の開発が減少しているという事が起こっています。

一般的に「かぜ」と呼ばれる主にウイルスが原因の感染には、抗生剤（抗生物質）は効きません。つまり必要ありません。受診をされて医師が必要と判断した感染に対してのみ抗菌剤を必要な期間処方します（溶連菌感染症など）。この６月からは、何らかの文章でこのことを説明し６歳未満には診療報酬点数が加算されることになりました（ここ数年は診察時に説明していたのですがね…）。

みなさんも抗生剤適正使用にご協力下さい。

引用：国立国際医療研究センター病院　AMR 臨床リファレンスセンター

URL：https://amr.ncgm.go.jp/

感染担当者より

新型コロナウイルスが５類になり、ニュースや新聞でもあまり耳にすることが無くなりました。感染数が減ってきたとはいえ５月中には学級閉鎖や施設内感染も見られていました。また、感染性胃腸炎も増えています。家庭での感染を防ぐためには帰宅時だけでなく、手洗い・うがいは大事です。

季節が夏に変わり気温が高くなってくると、食中毒にも注意が必要です。お弁当や食品の保管方法にも十分に気を付けていきましょう。

院内感染対策室　佐藤副師長

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）秋田病院
病児保育室はっぴぃ　〒016-0851　秋田県能代市緑町 5-22　3階ナースステーション隣り
ＴＥＬ　（代表）0185-52-3271　（予約・問い合わせ）090-8924-4253
アドレス　happy@akita.jcho.go.jp　※メールでの予約対応はいたしません

★次号９月発行予定★

編　集　藤田・八木・菅原